



Vol 9

横浜市戸塚区民文化センター  
さくらプラザ 情報誌



# SAKURA PLAZA



Pick Up Artist

インタビュー

## 柳家 小せん

ブランチコンサート Vol.12

SAKURA ONLY KNOWS

トランペットとピアノで巡る、ロシア音楽・ロマン派の旅 菊本 和昭

RECOMMENDED ARTIST

エッセイ 柳家小せん

筆の向くまま

戸塚出身の小せん師匠が、扇子をペンに持ち替えて

レポート 駆が駆ける

名店「きぶね」に行ってきました！ 編



SAKURA PLAZA



落語家

## 柳家 小せん

～小せんになっても、のんびり、ゆるりと～

落語好きが高じて飛び込んだ噺家の世界。

今まで落語を知らない人でも一遍騙されたと思って生で見ていただきたいとおっしゃる師匠。落語への思いを伺った。

—まずは噺家になったきっかけ、理由をお伺いいたします。

子供の頃からテレビやラジオの落語番組をいろいろチェックしたりして散々聞いていましたね。それと、親に年2、3回ぐらい都内の寄席に連れて行ってもらったりましたが、中学に入る頃には自分1人で行くようになり、月に1回ぐらい、戸塚から東海線に乗って都内まで行ってましたね。日曜ですと上野の鈴本で「早朝寄席」っていう若手の会を午前中に見て、そこから池袋に行くことが多かったな。当時は土日、昼夜の入れ替えをしてないのが池袋演芸場ぐらいだったんで、昼の1時から夜の9時まで1日みっちり聞いていましたね。あとは、近所とか横浜近辺で落語会があったら行ってましたね。とにかく好きで、散々聞いてたというのが、ま、理由。好きが高じて、飛び込んでしまったという。

それともう一つは、落語を聞くようになる前に「バタリロ!」という漫画が好きでした。あれは、すごく落語ネタが多いんですよ。ちょっとパロディ化して落語のある部分を引用したり、上手く取り入れてるのが結構多いんですが、落語なんか知る前から好きで読んでたので、それも、のちに落語聞



いて面白れえと、はまっていく潜在的な理由になっていたのかもしれないね。

—では、最初から噺家になろうと?

大学の頃から鈴ヶ倉馬桜(れいれいしゃ ばおう)師匠の落語会を随分間きに行ってたんで、そこの打ち上げで、ちょっと面識があったりはしましたが、先方としてはよく聞きに来る落語好きな若いのがいるなというぐらいのもんで…で、お願いをして、相談をして、またお願いをして、ま、何べんかは断られますよな。それはな、やめといたほうがいいよっていう、聞いているほうがいいよっていう。ま、それでもということで、お願いをして、じゃ、卒業したらおいでなさいというようなことでしたね。

—それで卒業と同時に馬桜師匠に入門?

はい、入門ですね。弟子入り。基本的に毎日師匠の家に通い、かばん持ちで付いてたりとかもするんですが、それよりも寄席をちゃんと大事に勤めろっていう考えの師匠だったので、朝、師匠の家に行って、師匠の身の回りのことやったり、寄席行ってまいりますって寄席に行って、寄席の楽屋で

出演する師匠方のお世話をす、寄席の下働き、楽屋の下働きをするというのが、メインでしたな。

—師匠は稽古をつけてくださるんですか?

そうですね。最初は、みっちり稽古をつけてもらえます。で、ある程度になってくるとその一門関係なく、全く別の一門の師匠にもお稽古に通えるんです。この話は、この人に教わりたい、と思ったら自分の師匠を介して頼むんですけども、いろんな人に教えてもらえるっていうのは、ありがたいですね。先輩方もそうやって育ってきたんで、本当にもの数じゃない後輩でも、だいたい気前よく教えてくれるんですね。レッスン料とか稽古料をとるでもなく、無償で教えてくれるっていうのは、この世界独特のいい部分じゃないですかね。

—1997年に馬桜師匠に入門され、17年経った今、噺家になつて思うことはございますか?

ま、幸せですな、ありがたいですな…好きなことをやって、取り敢えず飢えることなく、なんとか暮らして、なんとか食べてはいけているというのは、幸せなことだなというのはありますね。あとは、噺家になって、1番何が違うかっていうのは、落語を客席で聞いて笑うってことができなくなってしまったことですね。プロになって、商売になったらね。業種によっては、歌手さんとか、役者さんとかは、チケット買って行って客席から見るというのもあるんですけど、落語に関しては客席から見るといのはご法度ですね。だから、勉強したいと思ったら楽屋に行って挨拶をして、袖から見せてもらうという形ですね。客席でのんびり笑って聞いているという、1番好きだったことができなくなりました(笑)。

—ご多忙の毎日だと思いますが、お休みはございますか?

はい、お休みはね、ありますよ。うん、お休みというのは、特に決まった週何日とかいう休みじゃなくて、仕事が入らなければ休みですから(笑)。

—そのような時は何をしたらしゃいます?

やっぱり仕込みですよな。新しい話を覚えるとか稽古をするとか、自分の見聞を広める本を読むでも、芝居を見るでも、映画を見るでも、インプットをしないと、話す内容がないですから。だから、これいつだったかね、橋家文左衛門師匠が色紙に書いてた言葉なんですけども、「噺家は稽古が仕事、高座は集金」って書いてあった。この人らしい書き方だと思いますね。



仕事するのは、お客様の前で喋るのが仕事かと思つたら、そうじゃなくて、そのための準備の稽古であるとか、いろいろ考えたり、新しいことを知ったりとか、それが仕事なんだなっていうことでしょうか。そう考えると、休みなんざないんですけどね。

—2015年新春さくらブラザ寄席にあたって、師匠から、その意気込み・見どころを。

ま、前回来ていただいた方には、また同じ顔ぶれですからね、今さら、申し上げるべくもないんですが、ま、私が地元でございますんで、よろしくという。入れていただいてありがたいですな。歌之介師匠は、寄席に出てる東京の噺家、500~600人ぐらいいる中でも、爆笑力っていう意味では、ほんとうトップクラス間違いのない方ですからね。文左衛門師匠は、もう見た目の通り怖いおじさんでございます(笑)。ただ落語はね、繊細なんですよな。ほんとに乱暴者のようであって、すごい細やかな気遣いをする人ですからね、そういうのがね、やっぱり話にも出るんですかね。また、「芝浜」は文左衛門師匠の得意ネタの一つ、売り物の一つですから、これは、もう是非お見逃しなくと言つときましよう。で、伊藤夢葉先生。大道具を使って、煙出してイリュージョンとか、そういう大仰のものじゃないんですけども、本当に

軽い楽しい寄席らしい手品です。お喋りマジックというくらいに喋りも面白く軽快で、なんか難しいこと考えずに、楽しめるマジックというので、寄席にはなくてはならない手品の先生も、今回お迎えできましたんでね。もう、本当に全編お見逃しなくとしか言えないかな。

—ありがとうございます。最後に戸塚のお客様へのメッセージを。

ボンと来てただ聞こうというふうな体勢でいてくれるだけで、日本語さえ分かれば、充分楽しんでいただけたと思います。私はともかくとして、なかなかこれだけの方が、こう揃ってみっちりやるというのは、あんまりないですね。今まで落語を知らない人でも、ここに出てる落語家の名前なんか聞いたことないよという人でも、一度試しに生で、是非見ていただけたら嬉しいな。よろしくお祈りします。

—ありがとうございます。

(聞き手: 飯島幹雄)

柳家小せん  
Kosen YANAGIYA



1997(平成9)年2月鈴ヶ舎馬桜に入門。1997(平成9)年4月前座となる。前座名「わか馬」。2000(平成12)年6月二ツ目昇進。2006(平成18)年1月鈴ヶ舎馬風門下に移門。2010(平成22)年9月真打昇進。「五代目・柳家小せん」を襲名。

情けにほろり、笑ってからり!

## 新春さくらプラザ寄席 「泣く落語」～其の貳 芝浜～

第二回は、人情噺に定評のある文左衛門の「芝浜」  
戸塚出身の小せんのゆるりと楽しむ落語  
人情味ある独特の語り口で古典落語から新作落語までこなす歌之介の爆笑落語  
ロープマジックを中心とした夢葉の奇術



1/24(土)  
14:00開場 15:00開演

出演:  
三遊亭歌之介  
橋家文左衛門  
柳家小せん  
伊藤夢葉

好評発売中

全席指定 3,000円  
【お問合せ】  
戸塚区民文化センター  
さくらプラザ 045-866-2501



トランペッター

菊本 和昭 *Hazuaki KIKUMOTO*

ブランチコンサートの第12回は、「トランペットとピアノで巡る、ロシア音楽・ロマン派の旅」(トランペット:菊本和昭、ピアノ伴奏:佐竹裕介)。

現在、NHK交響楽団で首席トランペット奏者を務められている菊本和昭さん。プログラムへの思いや、プロを目指す学生達へのメッセージなど、様々なお話を伺いました。

—トランペットを始めたきっかけを教えてください。

僕は関西(兵庫県西宮市)の生まれなんですけど、小さい頃は『プロ野球選手』か『お笑い芸人』になりたかったんです。スポーツに関しては、周りの友達に比べると自分には運動神経がないということがよくわかりまして... となると選択肢としてお笑い芸人しか残らないんですけど、実はそれも中学校を卒業するまでとても真剣に目指していたんです。ですけども、吹奏楽経験者の姉に「一度仮入部だけでも行ってみたら?」と言われて、気がつけば現在に至っているという感じですかね。

—プロを目指そうと思われたのはいつ頃ですか?

実際にプロのオーケストラ奏者を目指し始めたのは大学2年生の頃でしたが... 『SLAM DUNK』(高校のバスケットボール部を舞台にした少年漫画)という漫画の中で、流川楓というキャラクターがアメリカに行きたいと安西先生に相談すると、「君はまず日本一の高校生になりなさい」と言われるシーンがあるんです。それに完全に影響されて、「僕も日本一の高校生になりたい」って思っていたんです。けれど高校3年生の時の吹



奏楽コンクールでの結果は散々なものに終わってしまい、日本一の高校生にはなれなかった。それが悔しくて、いつか自分に子供が出来た時になにか成し遂げて、それを誇れるような父親になりたいと考え始めるようになったんです。よくよく考えてみると変わった高校生でしたね(笑)。それからは「トランペットを極めたい」一心で京都芸大に進学し、現実に「演奏家という職業」を得るにはどうしたらいいかを考え始めたのが20歳の頃でした。

—今後の目標は?

「菊本みたいなトランペッターになりたい」と目指されるような人物になりたい。それは演奏面でも、人間としても。次に今の演奏水準を最低でも維持して、何歳まで成長を続けて演奏出来るかということですね。N響の定期演奏会はテレビで放映され、ラジオでは生放送で流れますので、いい反応も悪い反応もたくさんいただいています。もう一つは教育です。特にトランペットの初期教育について、どうかしないといけなくて考えています。教育にも力を入れていかないと本職に反映されないと思っているので、仕事と家族が許す限り活動は広げていきたいと思っています。



—戸塚は吹奏楽が盛んです。未来のトランペッターたちに一言。

歳をとった所為か最近、コンクールの結果なんてどうでもいいのになと思ってきたんです。それはすごく大事だし、その結果を求めていくのはいいんですけど、それだけに左右されるような活動はしてほしくないなと思いますね。僕の高校時代の恩師がすごく独特な方で、大人びた演奏をするなって言うんですよ。「お前らはプロじゃない。高校生らしい演奏をしろ」って言われたことが未だに頭に残っています。

基本的にはやって楽しくないと続かないものですから、なにか楽しみを見つけないといけない。だけでも、その楽しみを見つけて、もっとうまくなりたいという欲が出てきたら、それは自分に対してもっと厳しくならないと楽しくはならない。最近は厳しいことばかり言われて、「こうしなきゃいけない、ああしなきゃいけない」っていうふうに詰め込まれて、結局自分の意思がないまま演奏する人が増えてるんじゃないかなって思ったりするんです。ミスすることを恐れずに、自分がどういうふう演奏したいか、どういうふう表現をしたいのかっていう「自我」を若いうちをもっともっとうさなきゃいけないと思うんですよね。

—今の時代はクラシックファン以外の人にクラシックの魅力をどう伝えるかが肝心だと思います。そのあたりはどのようにお考えですか？

本当にそうなんですよね。特に金管楽器の世界がそうなのかもしれないんですけど、自分のコンサートの客席には関係者が8割を占める。そうじゃなくて、自分を知らない人たちにも興味を持ってもらって、聴きにに来てもらえる為にはどうしたらいいかっていうのを考えないといけないと思っています。だからといってあまりにも子供向けの曲目をやっても仕方がないわけで、そこをなんとかしたい、できないかなと。何かいいアイデアがあったら教えてほしいです。

—今回のプログラムの聴きどころは？

最初の「ダッタン人の踊り」はとても心に残る旋律で、高校生の頃から大好きなんです。ただそれをソロで演奏したことが今までなかったんですよ。今回演奏する機会を買えたので、自分でもどれだけあの旋律の魅力を皆さんにお届け出来るかなというのは楽しみではあります。フリーゲルホルンで演奏する予定です。次にラフマニノフの「ヴォカリーズ」。このクラシックの名曲をEbトランペットで演奏予定です。そして「アルバムプラット」ですけれども、今回の中で唯一ピアノとトランペットの為の作品なんです。これはめちゃくちゃいい曲なんです。どこか懐かしさを感じさせる、とてもロマンチックな曲です。「展覧会の絵」は元々ピアノのための作品ですが、あたかもトランペットとピアノの為に作られた曲のような仕上がりに持っていったらなと思っています。

(聞き手: 黒澤 翔)



菊本 和昭 (トランペット)  
Kazuaki KIKUMOTO (Tp)



佐竹 裕介 (ピアノ)  
Yusuke SATAKE (Pf)

NHK交響楽団首席トランペット奏者。京都市立芸術大学大学院修了。フライブルク音楽大学、カールスルーエ音楽大学にて学ぶ。第7・2回日本音楽コンクール第1位やエルスワース・スミス国際トランペットソロコンペティション第2位など、国内外のコンクールなどで受賞。京都市交響楽団に約7年間在籍した。これまでにトランペットを早坂宏明、有馬純昭、A.ブログ、R.フリードリッヒ、Dr.E.H. タール各氏に、室内楽を呉信一氏に師事。

京都市立芸術大学大学院修了。フライブルク音楽大学へ交換留学。吹田音楽コンクール、宝塚バグ音楽コンクール、神戸芸術センター記念ピアノコンクールに入賞。これまでに森本雅子、両澤隆宏、迫昭嘉、阿部裕之、上野真、M.ロイシュナーの各氏に、ドイツ歌曲伴奏をH.P.ミュラーに師事。華頂女子高等学校音楽科講師。

BRUNCHCONCERT

2月9日(月)  
Open 11:00 / Start 11:30  
ブランチコンサート Vol.12

### トランペットとピアノで巡る、ロシア音楽・ロマン派の旅

ボロディン  
ダッタン人の踊り  
ラフマニノフ  
ヴォカリーズ  
グラスノフ  
アルバムプラット  
ムソルグスキー  
組曲《展覧会の絵》より

◆ 聴きどころ

民族色豊かな、一度聞いたら頭から離れなくなるような旋律をもつ《ダッタン人の踊り》。言わずと知れた名曲、《ヴォカリーズ》。トランペットのためにグラスノフが書いてくれた貴重な作品、《アルバムプラット》。そして今回の演奏会に向けてトランペットとピアノのために編曲した《展覧会の絵》。ロシア・ロマン派の音楽の美しさ、そしてトランペットの魅力を皆様にお伝えすることが出来れば幸いです。(菊本和昭)

**好評発売中**

ブランチコンサート Vol.11 (1/8) / Vol.12  
全席指定 (前売 / 当日)  
一般 1,000円

【お問合せ】  
戸塚区民文化センター  
さくらプラザ 045-866-2501

# 出張! THE LEAPS へ行っただるチャン!



記念すべき第1回目は、毎年11月3日、文化の日に東戸塚小学校にて開催される「戸塚ふれあい区民祭り」に突撃レポート!  
果たして区民の皆さんに戸塚区出身の幼なじみ2ピースバンドTHE LEAPSは受け入れてもらえるのか?!  
そして今後の連載に関わる、戸塚のオススメ!マル秘スポットは聞き出せるのか…?!  
そしてはじめての…♡アコースティックライブも敢行!  
さあ!さっそく行っただるチャ〜へ〜ん!

(区民まつり会場に入り…)  
MAYOU(以下M):今、会場の中に入ってきて、ここで演奏したことがあるっていうことを思い出した…!

NANA-A(以下N):えっ?部活とかで?

M:そう、中学の時プラスバンドやってたの。  
N:実は、私もここなんか見覚えあるなって思ったら…小学生の時に地元のパト部みたいなものに入って、そこでね、毎年、来てた気がする。  
M:まゆちとなんたん、小さい時から間接的だけど確実に会ってたよね(笑)

記念すべき突撃インタビュー1発目は…小学校の男子3人組!

N:みんなは同級生?  
-はい!そうです〜!(全員で元気よく答えてくれました!)  
M:区民祭りには毎年来るのかな?  
-毎年来ています!

N:これからね、ライブがこうして戸塚の色んな場所に行ってインタビューや演奏をしに行く企画が始まるのだけど小学校の中で流行ってる場所とか、みんなのオススメの場所とかをぜひ教えてほしいな!  
-倉田小学校の横にある八幡山公園とかかなあ…?結構広くてみんなが遊びに来てますよ。

1発目のインタビューからバシッと戸塚のおすすめスポットを聞き出すことに成功した2人!色んな出店やサンバのお姉さんの煌びやかな姿の誘惑にも負けず次なるインタビューへ急行! …でもやっぱりお昼時…おいしそうな香りに誘われ、大繁盛なおでん屋さんの看板の横には気になる「女性部」の3文字。部長さんにお話を伺えました!

M:あの〜、この看板の横に書いてある「女性部」というのがすごく気になるのですがどんな活動をされていらっしゃいますか?

-もうこれは歴代で、平成8年ぐらいからずっとやってるんですけども、女性ならではの問題、そういうものをベースにして、広がってほしいかなって思ってます。

N:区民祭りではおでんの出店は恒例なのですか?

-そうです、毎年!  
いつもね、13時前には売り切れちゃうんですよ。

M:わっ!じゃあもうすぐ…(腕時計をチラ見)  
-予約はどうかしら?(笑)  
M&N:おでん…(ゴクリ)

その後大興奮で白バイにまたがったり。「箱根駅伝で先導してるやつだ〜!!」  
byまゆち



FM戸塚のブースでは「おはよう! 咲くラジオ」のコーナー「いってらっしゃい」録音に参加したり(※MAYOU収録1/9 NANA-A収録1/12 OA予定)遊びに来ていた矢部町のご家族から連載で「サクラ戸塚」の近くで演奏してほしいなどのリクエストもいただきつつ…!

区民祭りでのインタビューは大収穫で終了☆

さあ、この後は場所を戸塚駅西口に移して、いよいよアコースティックライブをヤッタルチャン!

普段はエレキギターにドラムのスタイル、そして全国のライブハウスに楽器と物販を機材車に積んで戸塚からあちこちを飛び回るTHE LEAPS。意外にも戸塚でのライブは3度目(名古屋には昨年6回も行った噂…)そして、アコースティックスタイルでの路上ライブはふたりとはじめての経験!

この取材の前々日に初めてのシングルCD「Let's get together」も発売し、収録された3曲もアコースティックVerで演奏!

MCでは「戸塚出身の幼なじみ2人のバンドです〜」とまずはアピール。もちろん情報誌「SAKURA」の宣伝もぬかりなく! 赤ちゃんからご年配の方までたくさんの方に見守られながらの暖かい雰囲気での初めての路上ライブは進む。

ライブの最後に演奏した♪THE LEAPS♪のミュージックビデオはなんと! 戸塚区民文化センターさくらプラザホールで撮影した事も発表すると会場からは大きな拍手が!  
ふたりの地元である、戸塚区民の皆さんの愛に包まれながらTHE LEAPSの路上ライブは幕を閉じた。

連載1回目から様々な出会いを経験し区民祭りで得た情報を元に次の取材へもさっそく準備に取りかかっていたふたり。今後もTHE LEAPSの動向から(色んな意味で!?)目が離せない!!! さあ、次はどこへ行っただるチャン!?



THE LEAPS(ザ・リーブス)  
2012年2月29日LEAP DAY(閏日)結成。横浜市戸塚区出身。生まれも育ちも超ご近所の幼なじみ同士であるVocal&Guitar・MAYOU(ex.ロリータ18号)とDrums & Vocal・NANA-A(ex.THE PINK☆PANDA)による2ピースロックバンド。2014年11月1日には1stシングル「Let's get together」をリリース!(THE LEAPSライブ会場物販・ディスクユニオン一部店舗にて発売中)



# 駆が駆ける 最終回

## 名店「きぶね」に行ってきました！編

あけましておめでとうございます！  
 今回は「京うどん・そば きぶね」取材してきました。  
 戸塚の平戸に店を構えて約30年、数々のメディアに取り上げられてきた実績をもつ「きぶね」は、京都で生まれ育った71歳のご店主・岡田良彦さんが昼間は一人で切り盛りしています。  
 「きぶね」の魅力は、一味違う出汁と自家製手打ち麺、そして独創的なメニューの数々です。  
 「ベースである出汁が旨くないと、やはり美味しいものは作れない。」とご店主。きぶねの出汁は本鯉・宗太鯉・コクを出すための鯖節、少量の昆布を使っています。これをベースにうどんのつゆ、そばつゆを作ります。出汁だけをいただきましたが、その深い味に心底驚きました。「この出汁を使えばカレーだって最高に美味しくなる。」と仰いましたが、納得の味でした。  
 壁に掛けられたメニューを見てみると、「戸塚うどん豆腐」「そどん」「チーズきつねうどん」などがあるのに気が付きます。



※「元祖 戸塚うどん豆腐」

「元祖 戸塚うどん豆腐」は江戸時代によく食べられていたそうです。文献が残っていないので、今では幻のうどんとなっていますが、それをご店主の想像で現代風に再現したものだそうです。使われている麺には豆腐が練りこんであり、約800回手ごねをすとのこと。うどんの持つコシの強さとほのかな甘みを持ち、そしてなによりつゆとの相性が抜群に美味しい一品でした。ある時間いて、つゆにお酢を入れてみたところ麺との相性が格段に上がったとか。さっぱりとしているから女性にもとても人気があるとご店主は仰います。



※「そどん」は、うどんとそばの生地を薄く延ばして、重ねることで両方の良さを併せ持つことに成功した逸品です。

目を輝かせながら語るご店主から、うどん・そばへの愛情がとてよく伝わってきます。なぜユニークなメニューを開発するのかという質問には、「楽しいでしょ、そしてただ美味しいものを食べてほしいから」。よく人から「あなたは、商人ではなく職人だ」と言われるそうで、「金儲けだけでやってるわけではないから、一度に10食にしかない麺を800回手でこねたり、そんな手間の掛かること普通じゃないよね」と、美味しいものを提供するという一心で作り続けてきた姿に、素直に感動と尊敬の念を覚えました。



※「カレー南蛮うどん」やはりこれも美味でした。関西流で、出汁にカレー粉というシンプルな調理法、そこに片栗粉を混ぜてあり、粘り気があります。

裏メニューも数多くあるのが「きぶね」の面白さの一つです。「チーズきつねうどん」も、ももとは裏メニューとして出していました。約10年間かけて口コミで広がっていき、通常メニューになったそうです。なんと「うどんぜんざい」なるものもあるんですよ(笑)。ご興味のある方は、ご注文してみてもいいかがでしょうか。



※個人的におすすめの「チーズきつねうどん」。



私が取材をして気が付いたもう一つの魅力、それはご店主・岡田さんのお人柄です。一度お会いすれば、この人が作るのだから間違いないと感じると思いますよ！  
 10回続きました「駆が駆ける」は今号でひとまず終了です。知れば知るほど、戸塚にはまだまだたくさん魅力があることに気付かされました。今後は私が担当する人気(?)コーナー「戸塚見返り親父」の中で引き続き戸塚の魅力を紹介していきます。今まででご覧いただきありがとうございました！

『京うどん・そば  
 きぶね』

横浜市戸塚区平戸2-31-3

TEL/045-821-0655

【営業時間】

12:00~20:00

月曜定休



柳家  
 小せん

筆の向くまま



連載 最終回

……駄目だ、何も思いつかない……。戸塚出身の芸人として身骨を砕いて続けた連載、言いたいことや伝えたいことはまだまだあるはずなのに……言葉が出てこない。真っ白な原稿用紙が果てしなく広がる……。俺はここまでの人間だったのか。溢れてあまりあると信じていた才能は幻だったのか……。

『もういいんじゃないか？誰かがささやく声が聴こえる。』所詮その程度のモノだったんだよ。『意地悪く咬く声か、耳を塞いでも入ってくる。』「断筆」そんな言葉も頭をよぎる。

そうか、もういいか。筆を置くことにしよう。『花に風』のたとえもある。老兵はただ消え去るのみとも言う。『虎は死して皮を残す。』「死して屍捨つ者なし。」「……あれ？ なんだかわからなくなってきた。

ええ今回でこちらのコーナー、お別れでございます。もとより、十回くらいいなか書いてくださいよー。「ええ？ 俺なんかでいいの？」というやりとりで(当然、もう少し大人っぽい言葉遣いで)スタートしたものです。こちらは文章の専門家ではなくおしゃべりが商売ですからね。一年半ほど長らくのお付き合い、ありがとうございました。

あ、でもね、これで戸塚の皆様と縁が切れるわけではありませんから、そうはさせないよ。今後は、高座にて直接、お目にかかりたく存じます。落語会や寄席でお待ちしております。

## 男は背中で 物語る 戸塚見返親仁

トツカミカエリオヤジ

其之十



商店のご主人など、戸塚区内で働いているオヤジ世代の姿から、何処の何方だろうかと想像してみるコーナーです。次号では、見返りポーズで、お顔を公開します。

其の丸の後姿は…床屋アサヒの飯島勝彦さんでした！  
 「アットホームな店内で、親切・丁寧。あなたの髪を切らせてください！」



顔見世

(柳家小せん・戸塚出身 落語家)

# SAKURA PLAZA CONCERT SCHEDULE

金曜夜8時、ベートーヴェンのピアノの調べに酔いしれる—  
「20時のクラシック」シリーズ

## 若林 顕セルフプロデュース

### ベートーヴェンピアノ・ソナタ全32曲

各公演ともに、全席指定 2,000円 / ローソンチケット割 1,500円

**Vol.5 1/23 (金) 20:00**

ベートーヴェン:  
ピアノ・ソナタ第7番Op.10-3  
ショパン:ピアノ・ソナタ第3番Op.58



**Vol.6 3/20 (金) 20:00**

ベートーヴェン:  
ピアノ・ソナタ第8番「悲愴」、第9番、第10番  
ショパン:ノクターン第2番Op.9-2  
:幻想即興曲 ほか

## 鈴木 理恵子 室内楽シリーズ

### Vol.2 ピアノトリオ ～魅惑の室内楽～

2/15(日) 15:00 全席指定 3,000円 / ベアチケット 5,000円

出演: 鈴木 理恵子 (Vn) / 上村 昇 (Vc) / 若林 顕 (Pf)

アレンスキー: ピアノ三重奏曲第1番 二短調Op.32  
シューベルト: アヴェ・マリア、セレナーデ  
メンデルスゾーン:  
ピアノ三重奏曲第1番 二短調Op.49 ほか



世界で活躍する若手アーティストが贈る…45分間の優雅なひととき

## 「ブランチコンサート」シリーズ

各公演ともに、全席指定 1,000円

### Vol.11 松田 弦のギターで聴く新春パヴァー

1/8(木) 11:30

JSパヴァー: ヴァイオリン・ソナタ第3番より  
ナポレオン・コスト: 舞送行進曲とロンド Op.43  
ピアノ: プエンス・アイレスの夏  
アルベニス: マラゲーニャ ほか



### Vol.12 トランペットとピアノで巡る、

#### ロシア音楽・ロマン派の旅

2/9(月) 11:30

出演: 菊本 和昭 (Tp) / 佐竹 裕介 (Pf)

ボロディン: タタン人の踊り クラスノフ: アルバムブラット  
ラフマニノフ: ヴォカリーズ ムソルグスキー: 組曲「展覧会の絵」より



以降のブランチコンサート

Vol.13 祖国への思い～ロマン派によせて～

4/9(木) 11:30 安部 まりあ (Pf)

Vol.14 スイスで出会ったピアニストと奏でる、チェロの名曲の世界

6/18(木) 11:30 新倉 暉 (Vc)、櫻井 さやか (Pf)

Vol.15 舞曲に寄せる語り尽くせない想い

8/20(木) 11:30 安田 英主 (Pf)



さくらプラザ電話予約  
1/29(木) 14:00より  
※セット等のみ  
※催し開始は25(水) 14:00より

# SAKURA PLAZA EVENT SCHEDULE

## 新春さくらプラザ寄席「泣く落語」～其の武 芝紙～

1/24(土) 15:00 全席指定 3,000円

情けにほろり、笑ってからり!

出演: 三遊亭 歌之介 / 橋家 文左衛門 /  
柳家 小せん / 伊藤 夢葉

笑って笑ってほろりとくる  
江戸人情噺の傑作をお届けします。

好評  
発売中



## 第2回 Girls Music Festival (本選)

3/14(土) 13:00 入場無料

審査員: 富田 京子 (元プリンセスプリンセス)  
衛藤 浩一 (THE GOOD-BYE ドラム) ほか

予選を通過したガールズグループの公開ライブ  
審査を行います。当日は第1回GMF優勝バンド  
AQUAMARINEのスペシャルライブも開催!



## アートマネジメント講座「シンポジウム・協働の未来へ」

3/1(日) 13:00 参加無料 (事前申込) / 総合庁舎3F多目的スペース(大)

文化芸術活動の担い手となる区民と施設とのより良い「協働」を実現  
するために先行する事例から学ぶ講座。 ※詳細問合せ。

申込 ● 1/20(火) 15時～電話または窓口にて、先着順。定員になり次第締切。

## エレナの口笛講座 ～口笛の調べは天使のささやき!～

3/8(日) 14:00 参加無料 (事前申込) / リハーサル室

口笛奏者エレナが口笛について解かりやすく解説。  
ミニ演奏・吹き方レッスンもあり。

申込 ● 2/1(日) 10時～電話または窓口にて、先着順。定員になり次第締切。

## こども向けワークショップ「お魚を空に泳がせよう!」

3/7(土) 13:00 参加無料 (事前申込) / 練習室4

身近なお菓子のパッケージ等でさかなの形の凧をつくるワークショップ。  
対象: 小学生以上 ※詳細問合せ。

申込 ● 1/20(火) 15時～電話または窓口にて、先着順。定員になり次第締切。

## オルガン講座 ～電子パイプオルガンによるミニコンサート開催～

3/18(水) 14:00 入場無料 / ホール ※詳細問合せ。

講師: 富田 真希 (横浜みなとみらいホールオルガニストインターンシップ修了生)  
～パイプオルガンの歴史と仕組み～

荘厳なパイプオルガンの響きを再現するViscount電子オルガンの音色でお楽しみください。

出演者・曲目などは変更になる場合がございます。あらかじめご了承ください。

Vol.9

横浜市戸塚区民文化センター

さくらプラザ 情報誌

2015.1.4発行



ご予約・お問合せは TEL: 045-866-2501

戸塚区民文化センター さくらプラザ

〒244-0003 神奈川県横浜市戸塚区戸塚町16-17 FAX: 045-866-2502

http://www.totsuka.hall-info.jp MAIL: event@totsuka.hall-info.jp